

学校群を中心としたマネジメント

これまでの経過と今後の進め方

	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8～ (2026～)
モデル 学校群		【5学校群】 取組実施・効果検証 【3学校群】 取組実施・効果検証	取組実施	全 学 校 群 で 取 組 実 施
学校			実施 学校群体制構築 群目標設定 取組検討	



【令和6年度の取組】

(1) 令和5年度モデル学校群の取組の振り返り

(※今後、令和6年度のモデル学校群の取組の振り返りも実施)

(2) 令和5・6年度モデル学校群での取組実施

(3) 令和7年度に向けた準備

■「相互理解」からはじめるプロセス

課題の
認識・共有

強み・資源
の把握



取組の
検討



取組の
実践



学校群の校長や代表者の会議



各校の学年や教科ごとの会議



学校群内教員による取組の検討

■ 取組事例1 カリキュラム改善のための共通目標の設定

小学校、中学校の期間において、各学年でめざす子どもたちの姿を可視化・共有化することで、各学年や教科の教職員の役割や目標を明確化しています。

例：英語科の各学年のめざす姿

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
発表する やりとりをする	先生の発音を聞いて真似ることができる。		先生の発音を聞いて発音し、自分のことに置き換えて話すことができる。		自分のことや身近な人について、パワーポイント資料を作成し、話すことができる。	堺や大阪の町、日本の文化等について、パワーポイント資料を作成し、相手に伝え合うことができる。	今現在における環境問題について調べてパワーポイント資料を作成し、自分の考えを含めて2分程度で伝え合うことができる。
書く	アルファベットに慣れ親しむ。		アルファベット（大文字・小文字）を認識し、正しく書くことができる。 ヘボン式で名前を正しく書くことができる。 自分のことについて2、3文で紹介文を書くことができる。		自分のことや身近な人について、6文程度で紹介文を書くことができる。	堺や大阪の町、日本の文化等について、8文で内容を整理し、書くことができる。	今現在における環境問題について調べ、自分の考えを含め、10文程度にまとめて書くことができる。

■ 取組事例2 授業改善のための授業評価シートの活用

各学校の教職員が合同で研究授業を参観しています。

学校群内の教職員は、授業評価シートを持ちながら授業を参観し、自身の学びや授業者へのフィードバック等を行い、相互の授業改善に活用しています。

授業評価シート 堺市立		学校	名前()
		() 年 () 組 ()	先生の授業について
UDの視点・観点		○良かったこと・参考になったこと	▲改善点
焦点化	①導入・展開の工夫 ・課題の明確化 ・教材提示 ・見通しのもたせ方 ・集中の持続		
	②指示・発問の工夫 ・具体的な言葉 ・スピード、問のとり方 ・明確な指示 ・働きかけ ・モデル提示		
視覚化	③板書の工夫 ・見やすさ ・図表 ・文字の大きさ ・色		
	④視覚支援の工夫 ・指示地の工夫 ・目録等の活用		



「焦点化」「視覚化」「共有化」「配慮」の4観点について、良かった点や改善点等を記載します。

「授業評価シート（左図）」を持ちながら、授業を参観しています。

■ 取組事例3 授業内容の向上（小学校と中学校の連携）

中学校の教員が小学校で授業を行ったり、それぞれの小学校の子どもたちが中学校に集まり、いっしょに授業や行事を行ったりしています。
このことにより、子どもたちの中学校進学への不安の解消が期待できます。



中学校の英語科教員が、小学校で英語の授業を行っています。より専門的な学びが実践でき、教員と子どもたちの距離も縮まります。



連合運動会の前に学校群内の小学校の子どもたちが中学校に集まり、中学校の保健体育科教員が中心となって、綱引き等の練習を行っています。

■ 取組事例4 授業内容の向上（小学校と小学校の連携）

中学校と小学校だけでなく、小学校同士の学びの充実に向け、普段の授業でも交流を行っています。交流にあたっては対面やオンラインそれぞれの良さをいかながら取組を進めています。



総合的な学習の時間の授業では、学校群内の小学校の子どもたちが集まって、自分の住んでいる地域や世界の国々について発表しています。



ICTの機能や特性を活用して、オンラインで別の小学校の子どもたちによる発表を観て、チャット機能も活用しながら感想を伝えています。

■ 取組事例5 資源の活用・共有（教育資源の活用）

学校の立地や外部との関係性は様々です。**それぞれの学校の教育資源を学校群で活用・共有し、**子どもたちの学びを広げています。



校区内に田んぼのない小学校の子どもたちが、田んぼのある小学校を訪問し、**交流しながら、**いっしょに田植えを行っています。



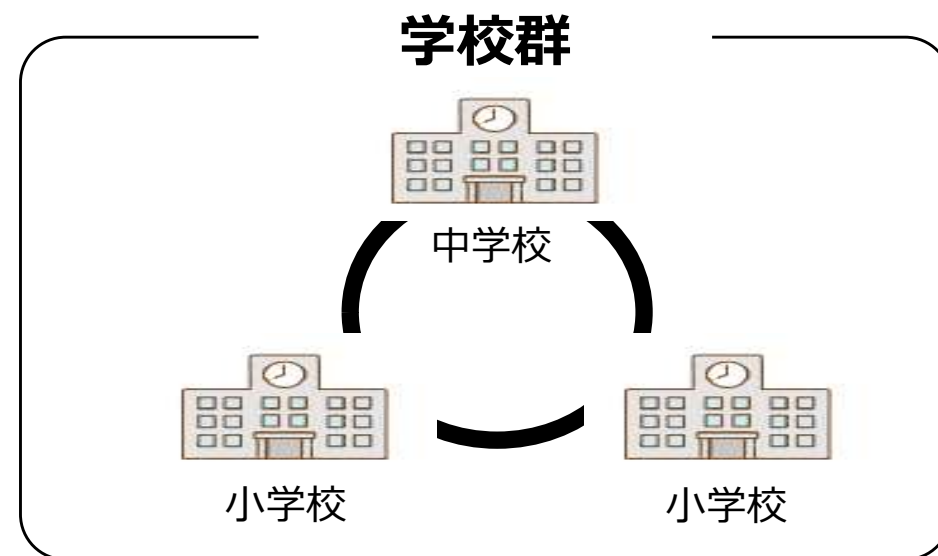
ゲストティーチャーを招き、学校単位での取組としてではなく、学校群内の**小学校の子どもたちを交えた授業**を実施しています。

■ 取組事例6 資源の活用・共有（情報・知識・物品の共有）

小学校や中学校が持つ**資源（物品、設備）**や**情報**を学校群内で**活用・共有**し、学校群一体で子どもたちの学びや将来を支えています。



中学校教員による**小学6年生の保護者を対象とした高校の進路説明会**を学校群合同で開催し、早い段階からの情報の伝達・共有を行っています。



各学校の**学校事務職員同士**が**情報共有**を図り、予算執行や**物品共用**等、それぞれの知識や経験をいかした運営を行っています。

■ 効果

学校群の仕組み

■ 教職員の意識のChange

対話・コミュニケーションからの様々な気づき

【事例】教職員同士の交流で、お互いに指導内容を知ることができ、授業にいかせた

■ 教職員の繋がり

教職員同士の繋がりから広がる連携・協働

【事例】他校の教職員と相談しやすくなった

■ 小学校と小学校の連携強化

小中連携だけではない横の繋がり醸成

【事例】協働的に取り組むことがスタンダードになった

■ 子どもたちの学びの広がり

これまで出来なかった取組・活動の実現

【事例】教職員が協力し合うことで実現できることを実感し、積極的に検討を行い始めた

実際の取組

■ 子どもの学ぶ意欲の高まり

ワクワク・ドキドキする授業の実現

【事例】対面やオンラインで合同授業や交流を実施した

■ 中学校に対する不安の軽減・解消

安心して進学できる心のゆとりの醸成

【事例】中学校教員が小学校で授業を行った

■ 効果的な授業の実践

子どもたちに必要な力の育成

【事例】各学年のめざす姿を共通目標として設定した

■ 子どもたちの居場所の確保

安心して過ごせる選択肢の広がり

【事例】どこでも利用できるスペシャルサポートルームを開設した

■ 課題と工夫

見えた課題	実践された工夫や取組
■ 各学校のズレ それぞれの学校間のズレをどうするか 【事例】行事の日程が異なる	■ 各学校での行事等の日程調整 日にちを合わせることで、出来ることを増やす 【事例】事前に行事日程を調整する
■ 距離や時間の壁 どう乗り越えるか、乗り越えられるか 【事例】学校間の距離があり、頻繁に往来できない	■ ICTの機能や特性をいかした取組の実践 距離や時間の壁を越える 【事例】オンライン会議システムを活用する
■ 全ての教職員の巻き込み どのようにして学校全体の取組にできるか 【事例】全体への浸透に時間がかかる	■ 校内組織体制の構築と運用ルールの設定 実態に応じた柔軟な運用を行う 【事例】「学校群の日」を設定し、専門部会や学年会を開催する 全教職員向けの中間報告会を実施する
■ 持続することの難しさ どのようにして継続して実践するか 【事例】人の入れ替わり等がある	■ 教職員同士による相互連携 教職員の繋がりから協働に展開する 【事例】指導案の共同作成や教材等の共有を行う
■ 業務バランスへの対応 円滑な実施に向けてどう対応するか 【事例】学校群としての作業で業務が増える	

■ 子どもたちの声、教職員から見た子どもの姿

★自分の考えを表現する機会がたくさんあって良かった。友だちの意見を聞きながら自分の考えと組み合わせて良い考えを作ることができた。
(小6児童)

★普段と違う友だちの発表が聞けて良かった。他の小学校の友だちが学習して気づいたことを参考に自分も実践してみようと思った。
(小5児童)

★中学校の先生が小学校に来てくれるので、中学校での勉強やテスト、部活動のこと等、色々聞くことができ安心した。
(小6児童)

★中学生になった時に、はじめて会うわけではないので、友だちができやすかった。先生も知っている人がいて安心した。
(中1生徒)

★他の小学校の友だちの発表の仕方、まとめ方が参考になった。また私たちが調べた内容をそれぞれの学校の学習の時間に深めてくれていて嬉しかった。
(小5児童)

★普段、綱引きの練習を十分に行うことができなかったけど、学校群内の同級生と一緒に練習を行ったり、競技会場での再会と本番での健闘を誓い合ったりすることができて嬉しかった。
(小6児童)

☆子どもたちは、自分の知りたいことを熱心に調べていた。学校群内の小学校の友だちにどうやら伝わりやすいかと、いつも以上に工夫しようと取り組んでいた。
(小学校教職員)

☆子どもたちは、小学校段階から合同行事で何度も顔を合わせているので、中学生になったときにすぐにクラスになじむことができています。
(中学校教職員)

☆中学生が行事に参加したことで、子どもたちが主体となって行事を運営することができた。
(中学校教職員)

■ 教職員や保護者等の声

● 学校群内の教職員で**学習指導案や教材・教具を共有**することで、**授業の質の向上を図ることができた。**（小学校教職員）

● 学校事務職員同士で物品リストを共有することで、物品を買う前に一度、**学校群内から借りられないか聞いてみるようになった。**（小学校教職員）

● 今後は他のモデル学校群の教職員とも意見交換をして、**自校でどのような取組ができるのかを考えた。**（小学校教職員）

● 教職員の各部会の連携は、オンライン化が進んでいることが幸いしているが、やはり学校群の取組をすることは**業務過多**となっている。（中学校教職員）

● **仕事量の増加**を感じる。しかし、**取組は良いこと**なので発展は必要だと思う。（小学校教職員）

○ 幼稚園の頃からの友達とオンラインや対面で久しぶりに会えて一緒に勉強できて、楽しかった。」と**子ども**が晩御飯の時に**嬉しそうに話してくれた。**いつか中学校でつながる同級生と仲良くなって、学習にも意欲がでてくれるので**ありがたい。**（保護者）

○ **隣の校区の子どもたちと仲良く学んで、子どもたちが落ちついて学習に取り組んでくれているのが嬉しい。**（地域の方）

○ 学校群の**魅力や長所が感じられない。****教職員の負担が増えそうな感じがする。**（保護者）

○ 当初はモデル実施前と変化を感じていなかったが、**子どもが中学校に進学した際、知っている友達や先生がいて安心している姿をみて、学校群のよさを実感した。**（保護者）

■ 総括

- 学校群の仕組みの大きな成果は、**教職員の意識の変化と教職員のつながり**である。

異なる学校の教職員がお互いを知ること、連携や支援等の幅広い取組につながるきっかけとなった。

- その結果、目的である「カリキュラムの改善」、「授業の改善」に資する取組が数多く実現した。

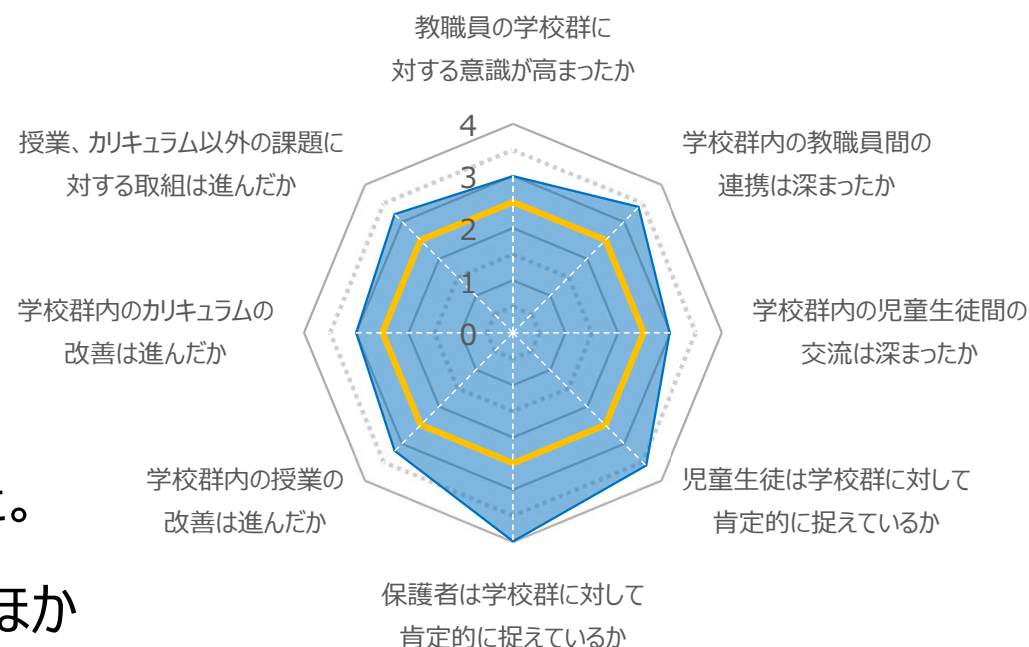
- また、「カリキュラムの改善」、「授業の改善」のほかにも、**幅広い取組の実践が期待**できる。

- **一方で**、学校群の仕組み、学校群で実践する取組に対する**課題もある**。課題の解決にあたっては、モデル学校群では**様々な工夫を施しながら実施**している。

- 今後、こうしたモデル学校群の取組等を**広く発信**することが必要である。また、『**教職員が働きやすく「働きがい」のある学校の実現**』も重要である。

モデル学校群へのアンケート結果

(8つの項目を4段階で評価)



■ 8つのモデル学校群

学校群名		学校名	軸となるテーマ
陵	西	陵西中 少林寺小、安井小、大仙西小	人権教育・キャリア教育を中心とした小中一貫教育体制の推進
	旭	旭中 神石小、大仙小	地域資源を生かした子ども堺学を軸とした9年間を見通した探究学習の充実
若	松	若松台中 上神谷小、若松台小、茶山台小	小規模校における教科担任制の導入、小中一貫教育による学力向上
三	原	三原台中 三原台小、泉北高倉小	特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施
五	箇	五箇荘中 五箇荘小、五箇荘東小、新浅香山小	学力向上に向けて9年間を見通した取組実施
月	州	月州中 三宝小、錦西小、市小	9年間を見通した情報活用能力の育成に向けた授業改善
八	田	八田荘中 八田荘小、八田荘西小	互いを認め合い、支え合える集団づくりをめざした生徒指導体制の構築
赤	坂	赤坂台中 赤坂台小、新檜尾台小	総合的な学習の時間・道徳を中心とした9年間を見通したカリキュラム・マネジメント

視点	主な取組
全校での円滑な実施	■ 令和5年度・令和6年度のモデル学校群の取組の振り返り 学校群の取組を検証・考察し、今後の取組に反映 ■ 振り返りを踏まえた、学校向けの「てびき」の作成 学校群の取組の進め方等を全校で共有 ■ 学校での機運醸成の取組の実施 中学校区内での合同研修や、学校群の理解促進に向けた校内研修を実施
学校群マネジメントを支える仕組みの再構築	■ 校長マネジメントが発揮できるための制度の見直し、再構築 予算執行、教職員加配、兼務、人事異動、教職員研修等 ■ 学校群のグランドデザイン（学校群教育目標等）の改訂 9年間を見通して、子どもたちにどのような資質・能力を育成するかを学校群単位で可視化・共有化
理解の促進	■ 学校の教職員や事務局職員に向けたオンデマンド配信 学校群マネジメントの概要やモデル事業の取組発表の様子を収録して配信 ■ 校長を対象とした出前講座の実施 学校群マネジメントを円滑に進めるため、校長の伴走支援を実施 ■ 市ホームページ等での取組等の紹介、情報発信 学校群の取組を知ってもらうための情報を発信 ■ 学校群の取組を分かりやすく解説した「取組指針」の作成 学校群マネジメントの必要性や考え方を広く知ってもらい、学校群の応援団を創出